

2020年度 推薦入学試験（一般推薦等） 法学部 法律学科 「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
58	46

※一般推薦（指定校含む）、文化活動推薦、専門・総合推薦の総計

2. 法律学科 アドミッション・ポリシー

法律学科は、現実の社会において発生する様々な問題について論理的かつ合理的に考えることができる法的思考能力（リーガル・マインド）を持ち、さらにその能力をもちいて、これらの問題に対して柔軟かつ適切な解決策を導き出すことができる人材の育成を目指しています。

そのため、特に以下の点について、十分な適性と意欲を持った志願者を求めます。

1. 社会の動きに広く関心を持っている人物。
2. 物事を柔軟かつ論理的に考え、それを的確に表現できる人物。
3. 高い志と正義感、忍耐力を有する人物。

AO型入学試験では、志願者の自己推薦ポイント（人間性、活動実績、将来への夢・希望など）が、これから法律学科で学んでいく上でどのような意義をもつかを、みなさん自身の言葉で明確に表現できることが望まれます。

3. 出題の意図

この小論文の出題の意図は、本学科のアドミッション・ポリシーのうち、1.社会の動きに広く関心を持っている人物、2.物事を柔軟かつ論理的に考え、それを的確に表現できる人物であるかどうかを判断することを目的としている。

まず、この小論文では、問題文の読解と併せて、外国人労働者の受け入れ政策とその変更について問うことにより、社会の動きや法的な問題に対してどの程度の知識・関心を持っているかどうかを問う。その上で、高度な専門的知識を持たない外国人労働者を受け入れることによって、わが国の社会に生じうる問題点を提示しその解決策について自らの考えを示すことを通じて、物事を柔軟かつ論理的に考え、それを自らの言葉で的確に表現し、展開する能力があるかを問うものである。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

特になし

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
66	49

※一般推薦（指定校含む）、文化活動推薦、専門・総合推薦の総計

2. 地域行政学科 アドミッション・ポリシー

本学科では、入学者に対して、高校卒業程度の基礎学力を身につけていることに加えて、特に以下の点について適性と意欲を持っていることを望みます。

1. 地域社会の出来事から、広く世界の情勢にまで関心を持ち、常に問題の本質を見極めようと努力する人物。
2. 何事に関しても、しっかりとした自分自身の考え方を育てるように学習し、同時に、他者との意見交換を通して、議論を建設的に発展させ、異なる考え方からも学ぼうと努力する人物。
3. 将来、自ら選んだ職業を通して地域に貢献することを希望し、それへ向けての努力を厭わない人物。

地域行政学科は、行政・民間部門において政策を企画・立案し、実務に対応できる人材、より深い見識と広い視野を身につけ、地域社会の発展に貢献できるような人材の育成を目指します。

特にAO型入学試験において、私たちは高い志を有し、地域や社会の動きに目を向け、行動力を有する情熱ある志願者を求めます。

これまでの勉強や部活動で得たもの、あるいはこれからの夢を、自分の言葉で表現できる能力を高く評価します。

3. 出題の意図

この問題の出題の意図は、受験生が、沖縄県といった地域社会の課題についてどこまで関心を持ち、関連する資料を理解したうえで、課題の解決策を論理的に説明することができるかを見ることである。

まず、沖縄県による「第10回県民意識調査」の結果のグラフを見せ、そこからわかる沖縄県が抱える課題を三つ挙げさせた。これによって、本学科のアドミッション・ポリシー1.の「地域社会の出来事」についての関心と「問題の本質を見極めようと努力する」能力、さらにアドミッション・ポリシー2.の「他者との意見交換を通して、議論を建設的に発展させる能力を見ようとした。また、沖縄県の課題の解決策を説明させることで、アドミッション・ポリシー2.の「自分自身の考え方を育てる」能力、アドミッション・ポリシー3.の地域社会への貢献に向けて、「努力を厭わない」能力を見ようとした。また、現代社会の出来事を挙げさせることは、学力の三要素である「知識・技能」に、それらの出来事についての意見を述べさせることは「思考力・判断力・表現力等」や「主体性」等に合致する。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

まず、出題通りに、グラフを正確に理解したうえで、沖縄県の課題を三つ説明し、その解決を提示する、という順序で小論文を書くことができているかが重要である。

次に、沖縄県の課題を説明するうえで、日ごろから地域社会に関心を持ち、新聞などを通してニュースを理解することで、グラフには必ずしも明確には書かれていない知識や情報をも盛り込んで課題の背景や現状を書くことができるかどうかポイントとなる。

最後に、課題を説明したり解決策を提示したうえで、読者が納得できるよう論理的に小論文を書くことができているかどうか重要である。

このように、日ごろから、新聞などを通して、日本や沖縄県のニュースに触れておくこと、現代社会の課題や解決策を説明する論理的な思考力、表現力を、本を読んだり、文章を書いたりすることで養うことを推奨したい。

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
63	48

※一般推薦（指定校含む）、文化活動推薦、専門・総合推薦の総計

2. 経済学科 アドミッション・ポリシー

経済学科は、社会経済における諸問題に、目的意識を持ち意欲的に取り組む人材の育成に努めています。そのために、以下のような志願者を求めます。

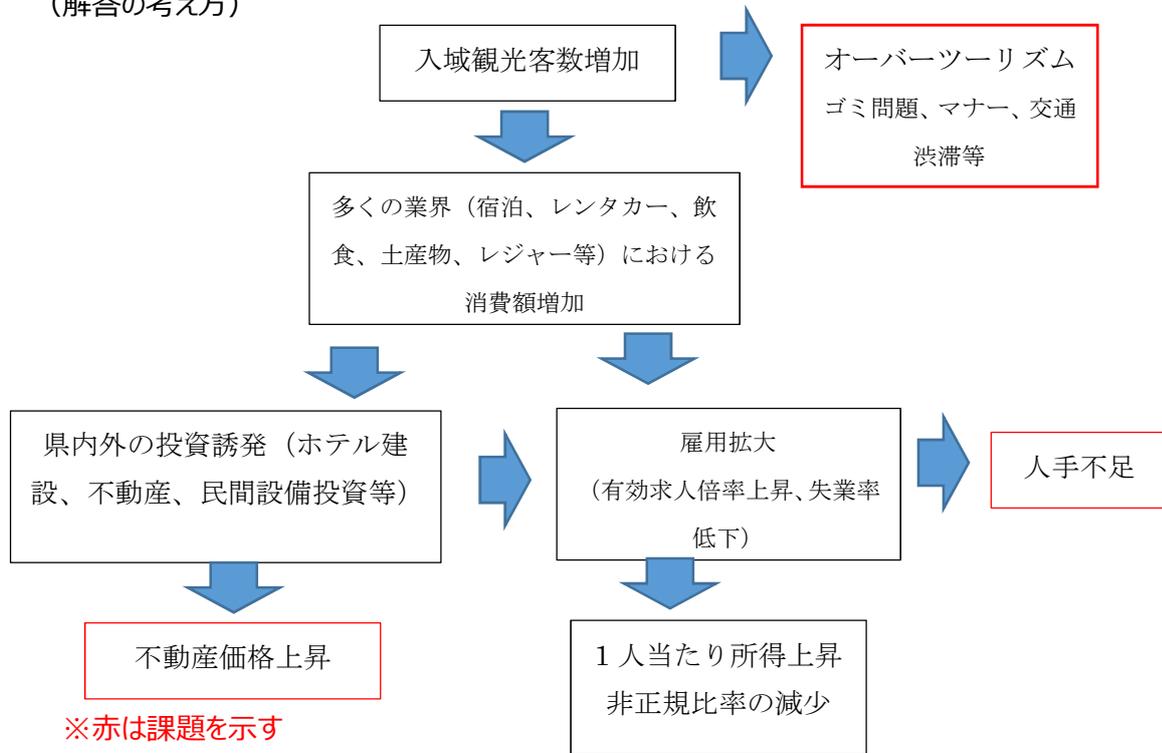
1. 高等学校卒業程度の基礎学力を有する人物。
2. 経済・社会を含めた諸問題に関心がある人物。

A O型入学試験では上記に加えて、経済・社会を含めた諸問題に強い関心を持ち、何らかの解決策を導き出すための「想像力・創造力・表現力」を有する人物を求めます。

3. 出題の意図

本小論文出題の意図は、受験生が「社会経済における諸問題に、目的意識を持ち意欲的に取り組む」意思と能力をどの程度有しているかを見ることにある。具体的には、受験生が県内経済の現況と諸課題にどの程度関心を持っているのか、質問（問題）の意味を正確に把握した上で考察し、自らの考えや主張を論理的に展開できるか否かを確かめる問題となっている。

(解答の考え方)



4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

特になし

2020年度 推薦入学試験（一般推薦等） 経済学部 地域環境政策学科
「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
60	43

※一般推薦（指定校含む）、文化活動推薦、専門・総合推薦の総計

2. 地域環境政策学科 アドミッション・ポリシー

地域環境政策学科では、経済の視点から地域と環境を考えることを通して、環境に配慮しながら地域経済の発展に貢献し、持続可能な社会を創造できる人材の育成を目指しています。そこで、本学科では、次の①～⑤について自らの言葉で説明できる志願者を求めています。

- ① 沖縄及び世界の経済や環境に広く関心がある人
- ② 沖縄地域の経済や環境を含めた、沖縄の過去・現在・未来に関心がある人
- ③ 様々なフィールド（現場）に出て、積極的に活動することが好きな人
- ④ 社会で起きている様々な事柄に関心を持ち、地域社会及び世界へ貢献したいという熱意のある人
- ⑤ 大学の授業に耐えうる基礎学力を有し、勉学に対する意欲がある人

特にAO型入学試験では、一般試験だけでは測ることが難しい多様な資質を有する学生を受け入れるため、コミュニケーション能力が高く、上記の①～⑤について自らの言葉で表現でき、学内外の活動に積極的に取り組んだ実績があり、それらの活動が、本学科で学ぶ上でどのような意味を持つのかを説明できる志願者を求めます。

3. 出題の意図

この小論文の出題の意図は、受験生が経済学部地域環境政策学科で学ぶ上で必要な能力をどの程度持っているかを見ることである。

まず問題文①にある通り、世界的に話題になっている海洋プラスチックごみ問題について知っていることを、具体例を挙げて記述させる。これにより、沖縄や世界の経済や環境に対する関心がどの程度あるか（上記 AP①、④）を測る。また、自身の経験等をふまえて記述している場合は、地域の経済や地元の環境に関心があるか（AP②）、フィールドにでて積極的に活動することができるかを見る（AP③）。さらに問題文②で、海洋プラスチックごみ問題を解決するために必要な方策を述べさせ、基礎的な知識があるか（AP⑤）、知識が乏しくとも自らの考えを展開していく能力があるかを見る。

最後に、小論文全体において、質問の意味を把握し的確に答える能力があるか、自らの主張を論理的に展開する能力があるか、そして熱意があるかを見る（AP⑤）。これらは、本学科のアドミッション・ポリシーの内容に受験生が合致しているかを判断するものである。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

今回の問題では、問題①と②をバランス良く記述することが重要であった。①について数行の記述で、あとはすべて②に関する記述等の場合、得点は低い傾向にある。また考えを展開する場合も、具体的事例に基づいて論述されているものについては、高く評価される。自身の思いつきや空想のような考えを展開した場合、論理的でないと判断される。

なお、決められた原稿用紙の使い方から逸脱しているもの、全体の文字数の不足、誤字が多い場合については、減点となった。

2020年度 推薦入学試験（一般推薦等） 産業情報学部 企業システム学科
「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
68	48

※一般推薦（指定校含む）、文化活動推薦、専門・総合推薦の総計

2. 企業システム学科 アドミッション・ポリシー

企業システム学科では、情報化、国際化の進展の中、多様なビジネス活動に対応できる人材の育成を目指し、「マーケティング」「経営」「会計」の3分野を柱に専門的、体系的に学んでいきます。よって、本学科では以下のような志願者を求めます。

1. 基礎的な教養を身につけ、自分自身のスキルや能力を鍛える意志を持っている人物。
2. 企業システム学科で学びたい事を自覚し、表現できる人物。
3. 大学卒業後のビジョンを抱き、地域・国際社会に貢献する意欲を有する人物。

さらに、学力だけでは計れない多様な資質を有する学生をAO型入学試験によって受け入れ、その資質を開花させるために必要な教育を通して将来のビジネス社会で活躍できる人材育成を行います。

AO型入学試験では、特に、次のような志願者を求めます。

- ① 他者に誇れる活動や実績等を有している人物。
- ② 企業システム学科で学びたい事を明確にアピールできる人物。
- ③ 大学卒業後のビジョンを抱き、自己研鑽ができる人物。

3. 出題の意図

企業システム学科では学生に、日ごろより、自身の地域がかかえる身近な課題や社会問題（ビジネス・企業問題を含む）に関心を持ち、主体的に考えてほしいと思っている。今年度の推薦入試では、受験生にとって身近な地域問題・社会問題をひとつ提示し、それについて考察してもらう。問題に対して、それを理解し、ふかく考え、自身の見解をまとめ、それを表現する力をみていきたい。理解し、考え、まとめ、表現する過程にあっては、高等学校2年生課程までに修得した知識（たとえば「政治・経済」「現代社会」「ビジネス経済」などの科目で修得した知識）を、うまく活用できているかどうかをみていきたい。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

特になし。

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
72	49

※一般推薦（指定校含む）、文化活動推薦、専門・総合推薦の総計

2. 産業情報学科 アドミッション・ポリシー

1. 将来の具体的なビジョンを描き、自己研鑽できる人物。
2. 情報科学や産業・経済に興味があり、産業情報学科で学びたいことを明確に持ち、意欲的・主体的に勉学に励むことのできる人物。

A O型入学試験のアドミッション・ポリシー

産業情報学科では産業社会(経済・金融・企業経営など)の基本的なしくみと情報技術について学び、経済活動や日常生活と情報技術の深い結びつきを理解することで、個人が地域社会において果たすべき役割について認識を深めます。

理論と実践が融合したカリキュラムにより、あらゆる産業分野において情報化を推進する「産業の情報化」、情報技術を基に企業や産業の創出・発展を企画し実行する「情報の産業化」が担える人材の輩出を目標としています。

また、学力だけでは計れない多様な資質を有する学生をA O型入学試験によって受け入れ、個性に柔軟に対応した教育を行い、多元的な社会で活躍できる人材を育成します。

A O型入学試験では、特に、次のような志願者を求めます。

- ① 他者に誇れる活動を行った、あるいは行っている人
- ② 産業情報学科で学びたい事を明確にアピールできる人
- ③ 大学卒業後の具体的なビジョンを描き、自己研鑽できる人

3. 出題の意図

この小論文の出題意図は、受験生が、「産業の情報化」および「情報の産業化」が担える人材の輩出を目標とする産業情報学科で学ぶ上で必要な能力をどの程度持っているかを見ることにある。そのため、本小論文は、主に産業・経済分野における情報通信技術の活用や新産業の創出などに関する基本的な関心や理解の程度および想像力などを測る内容であり、本学科のアドミッション・ポリシーとは整合していると考えられる。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

上述した主に測る内容について、優れた学生を特に高く評価したい。

1. 実施状況志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
55	49

※一般推薦（指定校含む）、文化活動推薦、専門・総合推薦の総計

2. 日本文化学科 アドミッション・ポリシー

日本文化学科は、日本文化及び琉球文化への造詣を深めることを教育上の目的としています。具体的には、言語学・文学を中心とする理論的、かつ実践的な教育を通して、国際社会、情報社会、地域社会の中で自己の役割を深く認識し、生き生きと実践できる人材、そして、豊かな知性、分析力、情報処理能力、表現力、コミュニケーション能力、共生能力を備えた人材を育てていきます。

日本文化学科は、以上の学科の教育目標と沖縄国際大学のアドミッション・ポリシーに照らし、次のような志願者を求めます。

1. 言語学・文学を中心とする日本文化及び琉球文化、またグローバル時代に求められる多様なコミュニケーションについて主体的に学ぼうとする意欲・関心をもつ人
2. 1.の学びを深めるための基礎学力をもつ人
3. 地域社会、国際社会、多文化社会、高度情報社会の中で生じるさまざまな課題を解決するために必要となる、基礎的な思考力・判断力・表現力(読解力を含む)を身につけている人

特に、AO型入学試験では、上記の3項目に加えて、以下のような能力・意欲と基本的な学習習慣をもった志願者を求めます。

- ① 批評・創作を含む広い意味での表現活動、知的好奇心を深める豊かな読書活動、琉球文化の継承発展に関する活動、国際交流活動などの領域で優れた実績を上げ、大学生生活の中で、さらに深めようとする人。
- ② 国語科教員、日本語教員、図書館司書(学校司書を含む)、司書教諭などの当学科の専門領域に関わる職業に深い関心を持ち、それを通じて社会貢献を目指す人。
- ③ ボランティア活動、課外活動(スポーツ、文化活動ほか) などを通して、広い視野(多様性)やコミュニケーション能力を備え、大学での学びに生かそうとする人。

3. 出題の意図

日本文化学科では、言語学・文学を中心とした、日本文化及び琉球文化、またグローバル時代に求められる多様なコミュニケーション、という3つの専門領域に関わる試験問題を毎年出題しています。今年度は文学分野の問題を出題しました。

【問1】は要約問題、【問2】は意見文問題となっています。いずれも、アドミッション・ポリシーの3にある、「基礎的な思考力・判断力・表現力(読解力を含む)を身につけている」かどうかを評価するための問題となっています。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

【問1】の要約問題については、①「要約」というものがどのようなものか理解しているかどうか、②課題文の要点を全て含めているか、③②を整理する展開・流れが適切であるかどうか、④既定の文字数に達しているかどうか、という4点を評価しています。

【問2】の意見文問題については、文学の楽しさ＝世の中で通念として存在する価値観への疑念をゆさぶられるような、これまでの読書体験を論じる設問としました。具体的には、①自分自身の意見とその論拠が適切に展開されているかどうか、②意見を支えるための具体的な論拠が示されているかどうか、③語彙力が高いかどうか、④既定の文字数に達しているかどうか、という4点評価しています。

【問2】については、日本文化学科のカリキュラムの1つの中心である文学への深い関心がある、またはこれまでに豊富な読書体験がある、あるいは、国語の文学教材の授業で読みを深める体験がある人ほど、しっかりとした考察・論述ができる問題になっています。また、設問には「自由な観点」とあるので、作者の「文学の楽しさ」についての考えを否定したり、別の視点に立って、新たな文学の楽しさを自身の読書体験とともに述べることも可能です。

2020 年度推薦入学試験（一般推薦等）総合文化学部 英米言語文化学科
「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
54	43

※一般推薦（指定校含む）、文化活動推薦、専門・総合推薦の総計

2. 英米言語文化学科 アドミッション・ポリシー

英米言語文化学科は、沖縄国際大学のアドミッション・ポリシーおよび学科の教育目標に照らし、以下のような志願者を求めます。

1. チャレンジ精神と意欲に満ちた人物。
2. 英語力の向上に積極的に努力する人物。
3. 英語圏の言語や文化に強い関心を抱く人物。
4. 他者とのコミュニケーションを大切にし、理想的な人間関係の構築に努力する人物。

英米言語文化学科は、言葉と人間との深いかかわりについて学び、言語や文化の多様性を理解することをモットーにして、世界の人々と対話・交流するために必要な「真に国際的に通用する実践的な英語力」と、益々グローバル化する社会に対応できる「情報処理技術」を身につけた人材の育成を目指しています。

特に、AO型入学試験では、次のような学生を求めます。

- ① チャレンジ精神と意欲に満ちた人
- ② 地域や社会活動に関心のある人
- ③ 語学と異文化理解能力を身につけ、国内外で活躍したいという志を持った人
- ④ 英検 2 級程度の英語力のある人が望ましい

* 二次審査では、日本語による面談のほか、英語による 5 分程度の面談も行います。

3. 出題の意図

英米言語文化学科は、①チャレンジ精神と意欲に満ちた人物、②英語力の向上に積極的に努力する人物、③英語圏の言語や文化に強い関心を抱く人物、他者とのコミュニケーションを大切に、理想的な人間関係の構築に努力する人物を求めています。本テストにおいては、英語で情報を読み取り、日本語で要約する課題を通して、英語圏の言語や文化に関する興味・関心・知識、一定量の情報を的確に読み取る英語力及び積極性、そして収集した情報を簡潔にまとめる発信力及びコミュニケーションへの意欲を判断します。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

特になし。

2020年度 推薦入学試験（一般推薦等） 総合文化学部 社会文化学科
「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
29	28

※一般推薦（指定校含む）、文化活動推薦、専門・総合推薦の総計

2. 社会文化学科 アドミッション・ポリシー

社会文化学科は、沖縄国際大学の「アドミッション・ポリシー」を以下の通りに具体化し、「沖縄」と「人間」について学ぶ意欲と関心を持ち、自らの個性と人間力の向上に努める人材を求めます。

1. 沖縄を理解するための知的的好奇心と知的探求心をもつ人物。
2. 沖縄をとりまく世界の社会や文化の動きに深い興味と関心をもつ人物。
3. 沖縄をとりまく世界の問題と向き合うための基礎学力を有する人物。
4. 自らの問題意識のもと、フィールド(現場)に出て積極的に情報を集め考え判断し、主体的に行動することができる人物。
5. 国際交流・地域・ボランティア・文化・スポーツなど学内外の活動に主体性と協調性をもって取り組める人物。

A O型入学試験では、上記の5項目のうち、特に1、4、5の各項目を重視します。

具体的には、

○項目1については、「知的的好奇心」や「知的探求心」を、大学生活の中でどのように発揮しようと考えているのかを説明できることを求めます。

○項目4、5については、これまでの実績を具体的に説明できることを求めます。

3. 出題の意図

社会文化学科は「地域理解能力と社会的コミュニケーションに長けた、問題解決型の人材を養成する」ことを人材養成上の目的としており、この目的に基づいて、アドミッション・ポリシーの中に「沖縄を理解するための知的的好奇心と知的探求心」「沖縄をとりまく世界の社会や文化の動きに深い興味と関心」「沖縄をとりまく世界の問題と向き合うための基礎学力」などを掲げています。

今回、いわゆる「平和学習」の抱える課題を踏まえた解決策の提示を出題したのは、上記の人材養成の目的やアドミッション・ポリシーに基づき、沖縄社会が抱える問題に対して関心をもち、自分自身の問題として考える姿勢を有しているかを判断することを意図したためです。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

本問には、唯一絶対の「正解」は存在しません。「平和学習」＝「沖縄戦に関する講話」という狭い視野にとらわれず、「平和について学ぶとはどういうことなのか」についての自分自身の考えをしっかりと持ったうえで、沖縄の戦後史といった新たな題材や体験学習等の多様な学習方法を踏まえて、「なぜそうした題材や方法が、自分の考える平和の学び方に」適しているのかを、論理的に叙述されていたかがポイントとなります。

社会文化学科の受験を考えている皆さんには、沖縄の社会や文化にどんな問題があり、そうした問題を解決するにはどうしたらよいのかを、多面的多角的に、そして「自分事」として考え、論理的に叙述できるようにしてもらいたいと思います。

1. 実施状況

志願者数・合格者数

①社会福祉専攻

志願者数	合格者数
24	24

②心理カウンセリング専攻

志願者数	合格者数
55	32

※一般推薦（指定校含む）、文化活動推薦、専門・総合推薦の総計

2. 人間福祉学科

①社会福祉専攻 アドミッション・ポリシー

社会福祉専攻では、以下のような志願者を求めています。

1. 将来、社会の各分野で社会福祉の専門家として働くことを強く希望し、その素質が十分であると認められる人物。
2. 社会福祉の分野に活かせる具体的な能力や技能を有し、大学での勉学や将来において活用が期待できる人物。
3. 将来、アジアや太平洋地域をはじめとする国際的な場における支援活動に参加することを熱望する人物。

上記に加えて、AO型入学試験では、以下のいずれかに該当する学生を歓迎します。

- 社会的マイノリティの問題を自分の問題として考えられる人
- グローバルな視点をもつ人
- 知的探求心と批判的な思考力を培い、積極的に社会に参画したい人
- 他者の個性、多様性に寄り添い、他者と一緒に社会の状況を正しく認識し、問題解決のためのスキルを身につけたい人
- リーダーシップを発揮できる人。また、自分や他者を肯定的に捉えることができる人
- 他者と協調、共創するコミュニケーション能力を持つ人

②心理カウンセリング専攻 アドミッション・ポリシー

人間福祉学科心理カウンセリング専攻は、沖縄国際大学の「アドミッション・ポリシー」を以下の通り具現化し、人間のこころに関心を持ち、自らの個性と人間力の向上に努める人物を求めます。

1. 人間の「こころと行動」と「人と人とのつながり」について学ぶ意欲と関心を持つ人物。
2. 大学で学ぶことに強い意欲と関心を持ち、自ら学び、常に自己研鑽、自己成長に努める人物。
(自分を成長させようという意欲と態度を持つ人)
3. 人間のこころや行動の成り立ち、働きについて、心理学的な立場からの確に理解し、日常生活に実践的に応用したいという真摯な態度を持つ人物。

AO型入学試験では上記に加えて、

- ① 人間のこころについて科学的な視点（実験・調査・観察・統計など）から学ぶ意欲のある人
- ② これまでに意欲的に取り組んできた活動や得意分野が、大学で学びたいことに結びついている人を求めます。

3. 出題の意図

今回の小論文試験問題の意図は、前述の人間福祉学科のアドミッション・ポリシー（①社会福祉専攻：1、2、3 と、②心理カウンセリング専攻：1、2、3）に示されるような人物にあてはまる素養がどの程度あるかを判断することであった。人間福祉学科において社会福祉学または心理学を学ぶにあたり、受験生がどの程度準備ができていないかを見極めることを目的とした出題である。

今後の社会生活において「社会で共に生きる人々の持つ多様性」とどのように向き合っていくのかについて考えていくことは、福祉や心理の専門職の立場と社会人としての立場のどちらにおいても身近で重要な課題である。それぞれの受験生が「多様性とその尊重」に対してどのような関心や意見を持っているのかということと、大学における学びの準備性を判断する材料としている。加えて、テーマへの関心や意見を整理して論理的に論述することができる能力を見るものでもある。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

【評価のポイント】

(1)テーマである「多様性とその尊重」に関してどのような経験をし、どの程度の知識や関心を持っているのか、(2)テーマに関する報道、世論、様々な意見についてどの程度知っているのか、(3)テーマに対してどのような意見を持ち、自分ができることについて具体的に考えられているか、(4)自分の知っていること、自分の経験したこと、自分の意見、自分が具体的にできることをそれぞれ関連づけて、自分の考えを論述する能力があるか、の4つのポイントから評価した。

【アドバイス】

日頃から、身近な出来事やニュースに対して関心を持ち、それに関連する自分の経験を意識的に振り返ったり、当事者としての視点（自分だったらどうするか、自分に何ができるか）で考えたりする、意識して気づき考えるという作業を習慣にするとよい。それと同時に、振り返ったこと、考えたことを、そのままにせず、自分の言葉で身近な人に説明したり、まとめた文章に書いたりする、アウトプットの作業を積極的に行うことを習慣にするとよい。